

Grant's dissector 修正

P.7 頸椎と腰椎 4.  
腰椎 lumber lumbar vertebra

P.13  
表 1.2  
背部深層の筋

頭板状筋 頸板状筋	片方のみの収縮により頭頸部を側屈・回転させる。両側の収縮により頭頸部を伸展させる。
棘筋 最長筋 腸肋筋	片方のみの収縮により脊柱を側屈させる。両側の収縮により脊柱と頭部を伸展・固定させる。
頭半棘筋	片方のみの収縮により頭部を側屈・回転させる。両側の収縮により頭部を伸展させる。
頸半棘筋	片方のみの収縮により頸部を側屈・回転させる。両側の収縮により頸部を伸展させる。
多裂筋	片側のみの収縮により体幹を反対側へ回転させる。両側の収縮により脊柱を伸展させる。

P.13 頸半棘筋の 1.  
~~頭半棘筋~~頭半棘筋 semispinalis cervicis muscle の深層に頸半棘筋頸半棘筋 semispinalis cervicis muscle を同定し剖出する。

P.16 解剖の概要  
(2行目) 腰椎 lumber lumbar vertebra  
(右カラム1行目) 腰膨大 lumber lumbar enlargement

P.17  
椎弓切除 ネ 158

P.22 7.  
メスで、三角筋の起始部を肩甲棘に沿って肩峰まで切り離す。

P.27 8.  
筋をグループに分ける区画をつくっている(図 2.16、図 2.21)。

P.28 皮下組織 (浅筋膜) 1.  
広頸筋 platysma muscle を同定する(図 7.5)。

5.のパラグラフは全文削除

P.30 表 2.2 胸筋部の筋 右端のカラム一番下  
鎖骨下神経鎖骨下筋神経

P.32

図 2.13

鎖骨下筋鎖骨下動脈

P32 7の5行目から

鎖骨下動脈肩甲下動脈は、その他にもいくつかの筋を栄養する名前がついていない枝を出す。外側胸動脈が肩甲下動脈から分枝することがある。肩甲下動脈の2つの終末枝のみ確認を試みる。

P.36 8.の3行目

ここを尺骨神経がある通るからである。

P.44 24.の3,4行目

尺骨神経は尺側手根屈筋と浅深指屈筋の内側半分を支配する。

P.48 19.の3行目

に入るのを確認する (図 2.2625、図 2.33)。

P.50 表 2.6

小指球筋群

小指外転筋	abductor digiti minimi	豆状骨、尺側手根屈筋腱
短小指屈筋	flexor digiti minimi	有鈎骨、屈筋支帯
小指対立筋	opponens digiti minimi	

起始のカラムの2段目と3段目の間の区切り線を削除

P.53 表 2.7 前腕の後区画

深層の筋

長母指伸筋	Extensor pollicis longus	尺骨の後面、前腕骨間膜
示指伸筋	Extensor indicis	

起始のカラムの長母指伸筋と示指伸筋の間の区切り線を削除

P.54 深層の伸筋群 3. 2行目

spinator muscle supinator muscle

P.67 前胸壁

3. 胸鎖乳突筋の遠位胸部側 5 cm を鈍的に深部の構造から剥離し、それを上方にめぐり返す。

7. は全文書き直し

ノコギリを使って両側の肋軟骨の切断を進める。図 3.7 の緑の線を参考にして、肋骨弓の下端からおよそ 4cm 上方まで肋骨弓のカーブに沿って下外側へ切断する。両側で中腋窩線まで第 8 肋間隙の肋間筋をメスで切る。(訳者注：この作業で内胸動脈を切断することになる。)

9. 第一肋骨を触知しながら、腋窩の構造物を後方へ鈍的に押し剥がす。

P.75 外表面の特徴 5.の 4 行目

と冠状動脈は、冠状溝と心前・後室間溝の中にある。

P.76 図 3.18B

房室結節枝(透過)と洞房結節枝(透過)が逆  
(英語名は正しいので、そのまま)

P.80 図 3.23

結節と半月が逆(英語は正しいので、そのまま)

P.85 4 分割法

2. 腹部の中央には臍 umbilicus umbilicus がある。

P.95 図 4.17

正中臍索(尿管膜管の遺残)

P.101 腹腔動脈

11. 総肝動脈から起始する起こる右胃大網動脈を同定し、大網～～

P.108 膵臓 7.の 4 行目

土方に位置して主膵管から上方に分かれる。

P.111 消化管を取り出す 全部書き直し

21. 腹部臓器はビニール袋にしまう、もしくは腹腔に戻して保存する。防腐液で湿気を与え乾燥を防ぐ。

P.114 副腎

6.同様にプローブで、干横隔膜動脈下横隔膜動脈から起こる～～～

P.114 腹大動脈と下大静脈

4. 有対体性枝 paired somatic artery(干横隔膜動脈下横隔膜動脈, 腰動脈)～～

P.115

6. 横隔膜下面で、大動脈裂孔近くに干横隔膜動脈下横隔膜動脈 inferior phrenic artery をたどると、この動脈が腹大動脈から起こるのが確認できる(図 4.48)。干

横隔膜動脈下横隔動脈から上副腎動脈が起こることを復習する。

P.115 10.の4行目  
側では関節的間接的に流入することを観察する。

P.116 腰神経叢  
腰神経叢 lumber lumbar plexus

P.117 腰神経叢  
9.上前腸骨棘付近で、単径靭帯より深くにある大腿外側皮神経外側大腿皮神経 lateral cutaneous nerve of the thigh を～～

P.124 臨床との関連 精管切断術  
精管を陰嚢の上部の陰嚢の上部での精管の外科的切断を～～

P.131 男性の骨盤の切断 15.の2行目  
ように注意しながら、ノコギリで第4、第5腰椎間の椎間板第3腰椎と第4腰椎の間の椎間円板の左半分を～～

P.145 女性の骨盤の切断 18.の2行目  
ように注意しながら、ノコギリで第4、第5腰椎間の椎間板第3腰椎と第4腰椎の間の椎間円板の左半分を～～

P.148 女性の直腸と肛門管 4.の2行目  
を出て会陰の肛門三角に入る (図 5.225.38)。

P.156 皮膚剥離 3.の2行目  
て、大腿後面(E)の方まで伸ばす。(E)まで伸ばす。

P.157 下肢後面の浅筋膜 8.  
上殿皮神経 superior cluneal nerves 脊髄神経(脊髄神経 L1-L3 の nerves

P.158 10. 全部書き直し  
10. 大腿近位部で外側部の皮膚に広がる手前(単径靭帯外側端付近)で、単径靭帯をくぐる外側大腿皮神経 lateral femoral cutaneous nerve を同定する。

P.158 11.の3行目から  
これらの神経が大伏在静脈より外側で浅筋膜に入ってくる入るのを観察する。

P.158 12.全部書き直し  
大伏在静脈に伴行して下腿に入るところ(膝内側面の深筋膜を貫くところ)で伏在神経 saphenous nerve を同定する。

P.160 伏在裂孔の9.  
~~ハサミで単径靭帯の下方で伏在裂孔の上縁から恥骨結節の直下まで大腿筋膜を切開する。~~単径靭帯の下方で伏在裂孔の上縁から恥骨結節の直下まで大腿筋膜

をハサミで切開する。

P.160 5.の1行目

大腿筋膜に大腿筋膜張筋の前面に平行な方向で平行な短い

P.165 18.の2行目

theobturator the obturator nerve を同定する(図 6.13)。

P.168 中殿筋と小殿筋の7.

ハサミで土殿動静脈の走行に沿って中殿筋を切断する。上殿動静脈の走行に沿って中殿筋をハサミで切断する。

P.168 図 6.15

後大腿皮静脈後大腿皮神経

P.170 臀部の外旋筋群 4.の4行目から

Division からなる。約 12%で座骨神経はここで分岐して現れる。脛骨神経と総腓骨神経がすでに分岐して現れる。

P.170 の 10.の5行目

(~~図 6.15~~) (図 6.16)

P.173 の 10. 全部書き換え

より浅層を走行する膝窩の静脈群から膝窩動脈をプローブを用いて鈍的に剖出する。

P.179 2.の3行目

定する (図 6.3A6.4A)。

P.180 図 6.25

腓骨支帯腓骨筋支帯

P.184 左カラム 2行目、3.の1行目、右カラム 2.の1行目 (計3カ所)

短指屈筋短趾屈筋

P.184 右カラム 4.の2行目

側・外側足底神経 medial and lateral planter plantar nerve と～～

P.187 図 6.31

短小趾屈筋 flexor digiti minimi brevis m.に引き出し線がない。

P.119 3.の2行目

する。胸鎖乳突筋をメスで切り、上方に耳下腺から引き離す。胸鎖乳突筋を耳下腺から引き離し上方へめぐり返す。

P.201 26.の最後  
同定されているはずである(図 1.12)。

P.202 7の2行目  
~~これらの~~この静脈は気管前面で

P.203 8.  
鎖骨下静脈を下方内側にたどり、

P.204 28.  
下頸交感神経節 下頸神経節  
上頸交感神経節 上頸神経節

P.209 顔の皮下組織と顔面神経 10.  
耳下腺神経叢から末梢(顔面筋群表情筋群)

P.210 13.の2行目  
顔面神経 facial ~~nerva~~ nerve

P.211 口裂周囲の筋 1.の最後  
境界をはっきりさせる明瞭にする。

P.211 4.と8.の最後  
境界を明らかにする。~~明瞭にする。~~明瞭にする。

P.217 表 7.5  
表 7.5 大腿前区画の筋 咀嚼筋

P.218 顎動脈の3.の5行目  
の分岐の中を通り通る(図 7.33)。

P.220 図 7.33  
下歯槽動脈 inf. alveolar artery 下歯槽神経 inf. alveolar n.

P.221 3.の3行目から  
り、椎骨動脈が貫いている。ハサミで、膜を貫く左右椎骨動脈の間で横方向に切開する。~~左右の椎骨動脈の間で後環椎後頭膜を横方向に切開する。~~椎骨動脈は切らない。

P.225 図 7.39  
内耳道内耳孔

P.225 10. の3行目から

経管の近くで舌下神経(XII)を~~しっかり目視によって確認し、~~両側とも切断する。  
(目視するのは困難なので、目視の指示は削除してください。)

P.227 5.  
(~~図 7.39~~41)

P.230 前頭蓋窩 1.の4行目  
形骨稜の後縁と~~から~~正中で切り離し、組織容器~~組織~~コンテナに入れる。

P.230 前頭蓋窩 2.の1行目  
蝶形骨頭頂静脈洞が蝶形骨稜に沿って存在~~七~~するのを、硬膜

P.235 図 7.49  
上眼瞼~~上~~瞼板 下眼瞼~~下~~瞼板

P.235 5.の4行目  
まっていることを注意~~確認~~する。

P.236 図 7.51  
外排泄管~~外~~排出管 lacrimal duct ~~excretory ducts~~

P.237 の12.の2行目  
れで~~すべての~~総腱輪を通過する~~すべての~~構造物が露出~~する~~される。

P.242 6.の2行目から  
geus muscle に区別される(図 7.62B)。輪状咽頭筋~~下~~咽頭収縮筋~~輪状~~咽頭部の

P.238 前方からのアプローチによる左眼窩の解剖 6.  
プローブで各直筋の腱を持ち上げ、ハサミで横断~~切断~~する。

P. 278  
lumbar lumbar enlargement 16  
lumbar lumbar plexus 116  
lumbar lumbar vertebra 7

以上